

ふるさと再発見 第76回

Re:discovery Omihachiman

文化財の保存修理 ①

五月人形

今回からは、文化財の保存や修理の様子を紹介します。初回は「五月人形」です。

「長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」である文化財。中でも形あるものは、経年劣化やさまざまな要因による破損が生じてしまうことがあります。本市では、今日まで受け継がれてきた文化財を後世に守り伝えていくため、保存・修理・活用を行っています。今回は、令和6年度に修理を行った五月人形について紹介します。

代は江戸時代末期から明治時代初期とみられます。当人形は旧八幡町新町通りに本店を構えた豪商・森五郎兵衛家伝来の貴重な歴史資料で、本市へ寄贈いただいて以来、保存と公開を行っています。修理は文化財の人の修理経験と確かな技術をもつ、専門の職人が在籍する業者へ依頼しました。

今回の修理で最大のポイントとなったのは、人形が自立できる状態に直すことでした。左立で膝でしゃがんだ姿勢の当人形は、腰にあたる部分の材が経年劣化などで痩せてしまい、安定した自立ができない状態にありました。そのため取り扱いが難しく、更なる破損の危険があるため、近年は展示を見送ってきましたが、今回の修理で胴体の中の基礎を作り直し、支える点となる両足も強化したことで、展示ができる状態となりました。

また、脱毛していた髪の毛を補填して結い直し、薄れていた眉毛や口紅の塗り直しと、お顔全体の汚れ落としを行いました。これにより本来のりりしい表情が戻り、くすんでいた肌の色も明るくなりました。五月人形の肌の色は、もともと真白が主流でしたが、江戸時代末期から明治時代にかけて、個々に濃淡がありながらも薄だいたい色へと移り変わっていききました。当人形はその過渡期の製作とみられますが、まだ真白に近い薄だいたい色をしています。



修理後の五月人形



修理で外された部分材

広報おうみはちまん

令和7年4月号

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課
〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236
TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp
WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp



広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



人口と世帯

令和7年3月1日現在
()は前月比

総数	81,890人	(- 17)
男	40,258人	(- 9)
女	41,632人	(- 8)
世帯	36,087世帯	(+ 14)

※外国人住民(39か国・地域/2,285人)を含みます。